

経営 VOL.28

医療機関での“クールビズ”を考える

【今、注目されている“クールビズ”】

先日、会員の先生より、『会社として節電するだけではなく、ポロシャツやアロハシャツ等で勤務する“スーパークールビズ”が TV で紹介されていました。もちろん、当院でも節電には取り組みますが、いっそのことユニフォームも白衣からポロシャツなどの清涼感のあるものにしようと考えています。患者さんはどのように思われるでしょうか？』というご質問を頂きました。

この数年、『クールビズ』という言葉が一般的に使われるようになり、アロハシャツやポロシャツをユニフォームとして採用している医院様もぼつぼつ出てきておりますが、今年は特に環境省より“スーパークールビズ”が提唱された影響で、今まで以上に「当院も少しは検討してみても良いのでは？」とお考えになっている医院様も多いようです。

そこで、今号では、『クールビズを医療機関で取り入れることの可否』について検証して参ります。

【クールビズ(COOL BIZ)の定義】

クールビズとは、『温室効果ガス削減のために、冷房時の室温を28 にしてもオフィスで快適に過ごせるような取り組み』を意味し、特に、今年は東日本大震災の影響で節電の努力義務が謳われ、環境省が「スーパークールビズ」と称して普及啓発を強化しております。

そのためか、クールビズを検討・導入する医院も出始め、待合室に『当院では節電に協力しておりますので、軽装で失礼致します』という趣旨の案内を掲げ、アロハシャツやポロシャツを着用し診療されているところもあるのですが、しかし、一方で『医療機関で働く者は、職業柄、身なりも患者さんの信用に関わるので、きちりとした服装でなければいけない』という声も未だ根強く残っています。

当然ながら、万人に支持される施策などなく、何を言っても「賛否両論」の声は出てくるものですが、まずは、実際にどのような声があるのかご紹介させていただきます。

【クールビズに賛成の意見】

主に、小さなお子様をお持ちの親御さんに賛成意見が多いようです。「子供が白衣の先生を見るだけで怖がってしまうので、軽装の方が親しみやすい」というのが主な理由です。

確かに、白衣の先生を見るだけで泣き出してしまうお子様もおられますし、大人の方でも**白衣恐怖症**()の方がおられますので、白衣を着用されているだけでも、無意識のうちに高圧的な印象を受ける患者さんがおられるようです。

実際に、ある医院様では、院長先生が今年からポロシャツに変えたところ、「先生が以前よりもフランクになった」という患者さんからの声が増えました。

院長先生は、特段、意識して対応を変えられた訳ではないのですが、服装をポロシャツに変更されただけで患者さんの受ける印象が大きく変わったようです。

【クールビズに反対の意見】

それに対して、反対意見は主にご年配の方に多く、『軽薄な印象を受ける」「不敬な対応では？」「診療に不安を感じる』というのが主な理由のようです。

おそらく、ご年配の方ほど、長年の経験などから医師の白衣姿に敬意を持ち、的確な治療の中身と表裏一体の印象をお持ちであること、また昔からの慣習や伝統を重んじる方も多いことから、軽装に対する抵抗感が強いと考えられます。

【総評】

「万人に支持される施策などない」という先述の通り、クールビズそれ自体に対する賛否は尽きません。

ここは、むしろクールビズそれ自体に対する是非の判断はさておき、『積極的に新しいことに取り組む、医院の風土創りの“きっかけ”として導入を検討されてみてはいかがでしょうか？このような医院は地域住民に活発な印象を与え、口コミになりやすいため、競合との差別化要因となります。』

なお、軽装にしたからといって、通常通りの診療をしていれば患者さんが離れていくということも考えられませんし、クールビズ自体も社会通念として一般的に浸透してきています。ですので、「どうしようか？」と迷っておられるなら、「一度試しにやってみる」、結果的に余りにも不評であれば「直ぐに元に戻せば良い」という位のスタンスで…。

(あくまで主観的な判断で結構ですから)患者さんにとって良いと思われるアイデアや施策は、スピード感をもってどんどん取り入れ、定期的に効果を測定した上で適否の判断を行う。これが基本的な姿勢として医院全体で共有されることにより、積極的に活発な風土が生まれる土壌となりえます。

() 今号の補足 : 白衣恐怖症(白衣高血圧症)

… いつもは正常な血圧の数値なのに、診察室で白衣を着た医師や看護師に測ってもらくと、なぜか精神的に緊張をしまい、「高血圧」と診断される程に血圧が上昇してしまう症状。背景には、元々緊張しやすい体質の方や、幼い頃の辛い経験(トラウマ)などが影響していると考えられています。